

かき産地の地域モデルとなる 経営体の育成と産地の活性化

高島農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

高島市今津町のかきは、昭和20年代から続く農家戸数40戸、栽培面積20haと県内最大の産地です。しかし近年、生産者の高齢化等から栽培面積が減少しており、このままでは産地の維持が危ぶまれます。そこで、産地のさらなる活性化を図るため、かき産地でのモデルとなる個別経営体の育成支援と、若手担い手で構成する「明日の今津柿を考える会」による産地計画の作成や実践の支援を行いました。

【普及活動の内容】

①地域モデルとなる経営体育成支援

産地のトップリーダーである指導農業士〇氏を対象に、経営移譲を前提として、水稻とかきの経営の改善点を明確にするとともに、経営管理指標分析を行い、経営改善計画の作成を支援しました。

②産地計画の作成支援

若手担い手で構成する「明日の今津柿を考える会」を対象に、生産者アンケートや前ビジョンの評価等を通じて議論を進め、今後の産地のあり方を示す「今津かき産地計画」の策定を支援しました。

【普及活動の成果】

〇氏の経営を分析した結果、かき作業と競合しない水稻栽培の実現やかきの高付加価値化などの課題が明らかとなり、農業者と相談しながら、今後の地域モデルの経営体となる経営改善計画を樹立できました。

「明日の今津柿を考える会」では、地域の担い手、生産、流通・販売の目指す方向等を示す産地計画が作成できました。早速、新たなブランド商品「今津かきくらべ」の開発・販売や栽培放棄園の伐採整地など計画の一部が開始されるなど、取組が始まりました。今後も計画の実現に向けて継続して支援を行います。

◎対象者の意見

経営移譲を契機として経営を見直すことができ、ありがとうございました。(指導農業士〇氏)



写真1 産地計画の検討会



写真2 完成した産地計画の概要



写真3 今津の新たな商品づくり「今津かきくらべ」